

研究課題名	腹腔鏡下肝切除術の安全性に関する検討 後ろ向き多施設研究
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科消化器・移植外科学 教授 大段秀樹
研究期間	2019年6月14日(倫理委員会承認後)～ 2040年12月31日
対象者	1991年1月から2030年12月の間に、研究協力施設において施行された腹腔鏡下肝切除術の患者。
意義・目的	<p>腹腔鏡下肝切除術は1990年代始めに報告され、徐々に葉切除などの大きな肝切除も行われるようになりました。腹腔鏡による拡大視効果から繊細な手術が可能となり、手術スタッフで術野を共有できる点もメリットです。手術成績は、開腹手術と比較して術中出血量の軽減や、術後在院日数の短縮がえられ、長期成績には差がないと多数報告されています。本邦では2016年に血行再建や胆道再建を伴わないすべての肝切除術式が保険収載され、現在では多くの施設で安全に施行されています。しかし、開腹手術との前向き比較試験は行われていないため、内視鏡外科診療ガイドライン(2014年版)では推奨度C1(腹腔鏡手術を行うことを考慮しても良いが、十分な科学的根拠はない)にとどまっています。</p> <p>そのような中で腹腔鏡下肝切除術の安全性評価が必要であり、以前の成績と比較することで安全性および手術成績の正確な評価を行うことを目的としています。</p>
方法	

本研究は、該当期間に当てはまる症例に対して診療録(カルテ)情報を調査して行う後ろ向き研究です。生存期間や疾患におけるリスク因子について統計解析を用いて評価します。

(個人を特定可能な情報は解析に用いません)

共同研究機関

なし

下記施設からデータを集めて解析する。

機関名 県立広島病院 責任者名 大下彰彦 役割等 データ提供

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

機関名 〇〇〇〇〇〇〇〇 責任者名 〇〇〇〇〇〇 役割等 〇〇〇〇〇〇

で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5222

広島大学大学医歯薬保健学研究科消化器・移植外科学 職名 特任講師 小林 剛

広島大学医歯薬保健学研究科消化器・移植外科学 職名 大学院生 氏名 山本将輝